

現状を踏まえた課題及びその対応策

1. 本市の現状を踏まえた課題

(1) ごみ処理における課題

- ① 1人1日当たりのごみ排出量(原単位)は、前回基本計画の実績から現在(令和4年度)に至るまで、ほとんど変化しておらず、前回基本計画と同様に、手付かず食品の廃棄量削減等と併せて排出抑制に取り組む必要があります。
- ② リサイクル率は、全国及び徳島県と比較すると低い現状にありますが、好気性発酵乾燥方式による中間処理方法の採用により、リサイクル率は飛躍的に向上(整備基本構想では84.0%に向上)することを反映する必要があります。
- ③ 好気性発酵乾燥方式による中間処理方法の採用により、最終処分率は飛躍的に減少(整備基本構想では1.3%に減少)することを反映する必要があります。
- ④ 好気性発酵乾燥方式導入による脱炭素社会への貢献度を反映する必要があります。
- ⑤ プラスチックごみの取扱いについて、好気性発酵乾燥方式では、固形燃料の発熱量を担保するために分別収集されている廃プラスチック類を混合処理することとなります。そのため、燃やせるごみとの分別区分の統合の可否について検討する必要があります。

(2) 生活排水処理における課題

- ① 前回基本計画では、公共下水道処理人口を見込んだ計画となっていましたが、令和4年度に「小松島市汚水処理構想」の見直しが行われ、市全域を個人設置型合併処理浄化槽により汚水処理を行う計画となったことから、これを受けて生活排水処理形態別人口の抜本的見直しを行う必要があります。
- ② 個人設置型合併処理浄化槽の設置による、汚水処理施設整備の推進によって、搬入し尿等の性状や搬入量が変化するため、小松島市外三町村衛生組合し尿処理場での維持管理の適応性について検討を行う必要があります。
- ③ 個人設置型合併浄化槽の推進に伴う費用を算出し、財源計画を明らかにする必要があります。

2. 課題に対する対応策

(1) ごみ処理における課題への対応策

排出抑制に対しては、新たに実施する市民・事業者アンケートにより前回基本計画との違いを比較することにより、より効果的な施策展開を検討します。

好気性発酵乾燥方式の採用を受け、リサイクル率、最終処分率を抜本的に見直すとともに、本方式の採用による脱炭素社会への貢献度を検討し、新たな項目として加えます。

現在、分別収集している廃プラスチック類については、分別収集は維持しつつ、施設で混合処理を行うのか、燃やせるごみと分別を統合するのかを施設整備基本計画での検討と併せて、経済性比較及び定性的比較を行い、処理フローの検討を行います。

(2) 生活排水処理における課題への対応策

本市全域を個人設置型合併処理浄化槽の整備範囲とする方針転換を受けて、生活排水処理率及び水洗化率を計画的に向上させていくために、必要な費用、その財源計画を検討し、具体的な普及シナリオを検討した上で、生活排水処理形態別人口及び量の推計予測を行います。

また、生活排水処理内訳の抜本的見直しにより、し尿量及び浄化槽汚泥量の見通しが大きく変更されると予想されるため、小松島市外三町村衛生組合し尿処理場での処理内訳の試算を行い、処理能力を検証するとともに、更新または基幹改良工事における留意点を整理します。